

理科 第4学年 ●自由研究 検討会の想定問答

指摘 1: 本時で何を見取るのか。

返し: 自分の疑問と調べる方法、記録する内容を対応させ、安全性と確かめやすさを理由に計画を見直している。完成した研究の優劣ではなく、夏休み前に実行可能な計画へ直す過程を見る。

指摘 2: 活動だけで終わらないか。

返し: 既習の記録から疑問を選び、既習や生活経験に基づく予想を使って確かめる方法を紙に書く。使う道具・観察場所・記録することを対応させ、教師が安全を確かめた計画へ直す。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。第3の2(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3: 予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し: 題材の派手さや道具の価格で選ぶ場合、身近な観察で答えられる問いへ絞る。既に研究が完成したことを前提にしない。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。第3の2(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4: 説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し: 比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。計画を点検して修正する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5: 安全や個人への配慮は何か。

返し: 危険な薬品・火・家庭用電源の実験を課題にせず、動植物の採集や立入規制を守る。費用や保護者の支援を前提にしない。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、第3の2(1)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6: 資料やICTはどのように使うか。

返し: 既習の記録から疑問を選び、既習や生活経験に基づく予想を使って確かめる方法を紙に書く。使う道具・観察場所・記録することを対応させ、教師が安全を確かめた計画へ直す。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7: 時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し: 全2時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「自分の疑問を、夏休みに安全に調べるにはどんな計画が必要だろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8: 振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し: 「自分の疑問を、夏休みに安全に調べるにはどんな計画が必要だろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。計画を点検して修正する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

